

こんげつ し きんがつきぜんはん
今月の詩（三学期前半）

ねん 年

す し えら あんしょう
好きな詩を選んで、暗唱しよう

いちねんせい
【「一年生」の詩】

ゆき

かわさきひろし
川崎洋

さかたひろお
阪田寛夫

はつゆき ふった
こなゆき だった



へびのあかちゃん

めがさめた

くつしたの下で きゅつきゅとないた

おめめは さめたが

しっぽは ねむい

まだ ねむい

どかゆき ふった
のしのし ふって



ずんずん つもり

へびのあかちゃん

ねゆきに なった

こえたてた

しびれが とけたら

べたゆき ふって

しっぽが くすぐったい

ぼたゆき ふって

おお くすぐったい



ざらめゆきはるになつて

もうすぐ 春だ



おうちの人と
いっしょに
よんでください。



「阪田寛夫」さんの詩には、誰もが一度は聞いたことのある
子どもの歌として、有名なものが、いくつもあります。七月
の今月の詩「ねこふんじやった」をはじめ、「さっちゃん
ね」、「どーしておながへるのかな」「朝いちばんはやいの
は、パン屋ーのおじさん」など、思わず口ずさんでしまっ
うな微笑ましい詩が多いです。「ゆき」「へびのあかちゃん」
も、言葉のリズムがある詩です。自分なりのテンポで拍を感
じながら暗唱できるとよいですね。

金森孝子